

全国代表者会議（第32回中央委員 会）取り組み方針（案）について。

討議資料抜粋

安全の確立について

私達はJR連合が提起している働く者の安全確保が、ひいては鉄道全体の安全向上につながるという認識に基づき、「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大事故ゼロ」のテーマを継続し掲げて取り組む強化していきます。引き続き「重大防災防止の行動指針」を活用して、職場、とりわけ、グループ会社、協力会社へおアプローチに重点を置いた対応を進めていきます。私達は、新聞やテレビ報道での大手企業による「飲酒問題」「データ改ざん」「隠蔽問題」等、世間を驚かす不祥事について、決して対岸の火事と思っただけではありません。なぜなら、日頃のちよつとした油断や気の緩みが大事故を誘発する可能性があるからです。平成30年度上半期の鉄道運転事故等の発生状況では、インシデントが1件、鉄道物損事故が1件、列車脱線事故が1件、6つの特定事故が11件起きました。また、いまだに無くなるならぬ隠蔽や虚偽報告、危険品漏洩、無保安状態での走行、信号違反、脱線・車両流転・手ブレーキ緩解不良等、全国にて様々な事象が起きています。私達は、旅客会社の線路を借りて運行しており、旅客列車と同じ線路を走行しているわけですから、危険品漏洩や脱線事故等が発生すれば、旅客を危険な立場に追い込むことになり、万が一、貨物会社の原因で旅客に怪我を負わせたとなれば、世間からの信用を著しく失墜し、会社存続

を脅かすことになりかねません。近年、トラックドライバー不足等で、鉄道輸送の注目度は、以前に増して注目を集めていきましたが、西日本豪雨被害の影響で鉄道が長期間運休したことで、これまでよりもさらに鉄道輸送の価値が大きくなり、脚光を浴びることとなりました。鉄道はバスと並び大変身近な公共機関であり、国民が見る目は大変シビアであります。何かが起きればトップニュースで扱われ、また、業務中の執務態度の悪さ、スマホ操作等が見つかれば、SNSの普及により、すぐに全世界へ送信され、会社全体の体質が問題視されます。我が社においても、乗務中の携帯使用が見つかり、投稿された経緯があり、貨物列車だから大丈夫という認識は通用しません。私達は、東海道線後退事故・福知山線脱線事故・石勝線火災事故等、過去に起こした大きな過ちを教訓とし、二度と同じ過ちを繰り返さないよう、国民に信頼される会社作りを全力で取り組まなければならないと思います。そのような中で、1月13日に起きた札幌貨物ターミナル駅構内での運転支障（危険事象）は、2017年12月16日に起きた鹿児島線千早操車場構内死亡労災事故の教訓が全く生かされておらず残念でなりません。平成19年7月の東青森駅構内触車死亡労災、同年8月の東海道線後退事故から11年が経過し、安全に対する取り組みをさらに強化している中で起きたことは、まさに痛恨の極みであります。今一度、

安全への認識を見つめ直し、6つの特定事故の撲滅・虚偽隠蔽の撲滅を目指し、厳しい道のりではありますが全員が一丸となり取り組んでいくこととします。安全に終わりはありません。

「具体的には」

- 1、ヒヤリハット報告が提出された際、機敏に対応しているのかチェックしていきます。
- 2、脱線事故等、重大な事故が発生した場合は、会社との協議を行い、二度と事故が起らないよう取り組んでいきます。
- 3、荷役作業に関わる事故については、各ロジ労組と連携をとって問題解決に努力します。
- 4、安全衛生委員会は機能しているかチェックしていきます。
- 5、JR連合が開催する、安全シンポジウム・業種間安全検討会・安全対策委員会に積極的に参加します。※安全シンポジウムは10月16日、高松市内で開催予定。
- 6、会社との安全経営協議会では、安全対策を積極的に講じるよう強く要請していきます。

で実践することを通じて、他労組組合員への働きかけや声掛けにつなげていく必要があります。また、掲示板の活用も必要なツールの一つです。私たちがどのような活動をしているかアピールするため、常に新鮮な情報を提供していくことが重要です。東海・九州地区本部にて組織拡大が成されましたが、組織は減少の一途を辿っており、今までも同様な運営方法では組織維持が困難であります。あらゆる面で模索し、今後の運営方法について、さらに検討していく必要があります。

「具体的には」

- 1、他労組との政策要求を比較してもらいながら、加入オルグを行うこととします。
- 2、各地区本部は、実現可能な組織拡大運動（新規採用者含む）を取り組むこととします。
- 3、青年部の「個の質の強化」を念頭に置いた、様々な取り組みを指導することとします。
- 4、3ロジ労組との連携を強め、他のグループ労組へも貨物連合加盟を働きかけることとします。
- 5、引き続き、関係単組、友誼団体との交流・連帯活動を行うこととします。
- 6、レク活動については、各地区本部のレクを事前に全国に紹介し、相互交流が行えるようにします。また、JR連合が主催するレク等に積極的に参加し、仲間と交流を図っていくこととします。

JR連合2019春季生活闘争の基本的な考え方

JR連合はこの間、すべてのJR関係労働者にとってあるべき働き方と中長期的目標を明示した労働政策ビジョンを策定し、加盟各単組は、春季生活闘争や労働協約改訂交渉などの労使協議を中心として、同ビジョンの実現にむけた活動を展

人生を渡っていくには、しっかりした橋が必要です。

長い人生には、病気、交通事故、火災、地震…など、何が待っているかわかりません。安心できる暮らしの「架け橋」として交運共済が頼りになります。営利を追求しないぶん、少ない掛金で大きな保障が得られるのが大きな特徴。しっかりワイドにガードする、交運共済をお役立てください。



開してきました。そのような中、2014年に策定した現労働政策ビジョンが今年度改訂期を迎えることから、2019年春季生活闘争は現ビジョンに基づく最後の闘いとなりま

す。よって、加盟各単組は、現ビジョンの到達状況を把握し、一歩でも前進を図る取り組みを強化しなければなりません。一方、JR各社においては、大阪北部地震、平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震、台風

の連続接近・上陸など相次ぐ自然災害により、多くの路線で甚大な被害を受け、過日公表された第2四半期決算においては、一部のJR各社で

通期業績予想の下方修正が行われました。しかし、年末年始期間の利用状況はすべてのJR旅客会社で前

年を上回り、合計でも9年連続で前年を上回るなど、足下では堅調な経営

状況となっています。

よって、加盟各単組は、JR産業の持続的な発展にむけた採用競争力の強化や人材の確保・定着を実現す

るため、これまで築き上げてきた信義誠実の精神に基づいた健全で建設

的な労使関係を基礎に、真摯な労使協議を通じて、JR産業を支え続け

ている組合員の負託に応えていく必要

があります。日本経済の先行きに

ついては、通商問題の動向が世界経済に与える影響や地政学的リスク、

相次いだ自然災害が国内経済に与える影響など国内・海外要因の影響を

受けつつも緩やかな成長が見込まれており、企業収益は過去最高を更新

しています。その一方で、実質賃金

や個人消費は横ばいで推移しており、GDPの推移と比較しても乖離

があることから、内需主導の経済成長とはなっていない。今後、10

月に予定されている消費税率引き上げや社会保険料率のさらなる引き上

げなど、可処分所得の目減りが懸念される中、経済の自立的成長を実現

するためには、GDPの6割を占める個人消費の回復が不可欠であり、

そのためには労働者の所得向上が必須です。

したがって、2019年春季生活闘争においても「賃金は最大の労働条件」との認識に立ち、月例賃金の引き上げに徹底してこだわり、賃上げの流れを継続・定着させる闘いを展開していきます。また、人手不足が深刻さを増す中で、個々の労働条件を含めた働き方全般について点検し、改善を図る取り組みも重要になってきます。生産年齢人口が減少の一途を辿る中で、労働力を確保するためには、働き方の見直しはもとより女性や高齢者の活躍が不可欠であり、そのためにも働く者一人ひとりの状況やニーズにあった多様な働き方を

選択できる仕組みの構築や仕事に合った適正な処遇の確保など、ワーク・ライフ・バランスの充実にむけた取り組みが重要になってきます。

そして、働き方改革関連法の成立や雇用形態間格差の是非を争った訴訟の最高裁判決なども踏まえ、自社の制度・運用や業務実態を点検し、必要な見直しを図る取り組みも展開しなければなりません。したがって、2019年春季生活闘争においても、現ビジョンで明示したあるべき働き方の実現にむけて、月例賃金の引き上げを軸としつつ、労働時間や休日・休暇制度といったすべての労働条件を点検し改善を図る「総合生活改善闘争」に継続して取り組むこととします。そして、グループ会社がJR産業発展の命運を握っているとの認識を改めて加盟全単組で共有することが重要です。特に、グループ会社における人手不足は前年以上に深刻さを増しており、要員不足が常態化する中、過酷な労働を強いられ

ています。蓄積された経験や知識、技量が必要とされるJR産業において、このような事態は心身の健康や安全確保、そして安全・安定輸送の観点からも危機的状況であり、人材流出に拍車をかけることにもつなが

ります。よって、JR各労使は、この厳しい現実を直視し危機感を持って、グループ会社の労働条件向上や安全

確立にむけた原資を創出するための方策（契約単価の見直し等）を施し、

グループ会社における人材の確保・定着にむけた取り組みを従来以上に強化するとともに、グループ各労使においても、自社の労働条件は当該労使で

創り上げていくといった気概を持ち、これまでの取り組みを継続・前進させていかなければなりません。

そのうえで、グループ会社とともにJR産業を支え続けている協力会社に対しても同様の取り組みを拡げていくことで、すべてのJR関係労働者の

現にむけた取り組みをより一層強化していくこととします。2019年春季生活闘争では、上述した視点や2018年春季生活闘争の成果と課題を踏まえ、JR各社はもとより、グループ会社や協力会社等で働くすべてのJR関係労働者の「底上げ・底支え」「格差是正」の実現を全面に押し出した闘いを、加盟全単組が一丸となって展開することとします。

貨物鉄産労としての春闘方針（案）
（賃金引上げ要求）

- 1、純ペア3000円を要求します。
- 2、期末手当年間4.5ヶ月以上（夏2.1ヶ月以上・年末は夏の差額）を要求します。
- 3、60歳以上の嘱託社員について、基本賃金一律1万円上積することとを求めます。
- 4、パート社員の賃金改善時間給額40円以上の引き上げ、時間給額1000円に達していない場合は、その実現を求めます。

諸要求については人事制度導入の絡みもあり、具体的な要求内容は代表者会議において決めていくこととします。

各地区本部報告

貨物連合九州旗開き

1月19日（土）、北九州市内において貨物連合九州の旗開きが開催されました。主催者を代表して田代委員長は、「2017年12月16日、千早操車場構内において死亡労災が発生し、組合員の尊い命が奪われた。会社に対し、二度とこの様な悲惨な事故を繰り返してはならないと、原因究明と再発防止の申し入れをし、交渉を行ったが、2019年1月13日、札幌貨物ターミナル構内において運転支障（危険事象）が発生、触車には至らず最悪の結果は免れたが、千早操車場構内死亡労災と同じような事象であった。本部は、あの教訓が全く生かされていないと、緊急申し入れを行った。2019年はまだ始まったばかりだが、安全最優先を肝に命じ作業をお願いしたい。組織においては、昨年、保全職場で心名、九州ロジで心名拡大できた。改めて関係者には感謝申し上げる。今年も役員が先頭になって組織運動を盛り上げてもらいたい。九州ロジでは、近年退職者が増えており、この最たる理由は、労働条件が低いからである。まずは本体がペアを勝ち取り、その流れを波及しグループ会社の労働条件改善を勝ち取らなければならない。2019春闘も組織春闘として取り組みを強化していく。

今年統一地方選挙から始まり夏に参議院選挙が行われ、まさに選挙イヤーである。我々の声を届けてくれる議員を政治の場に届けなければならぬことは必須であり、JR連合の方針のもと共に取り組むため、ご理解ご協力をお願いしたい」と挨拶されました。

入院、地震、火災、交通事故…一度も経験しない人はいない。

自分の身に起こってからでは遅いのが災害です。何事も備えあれば憂いなし。あなたや家族の幸せを自然災害や人災から守るために、しっかり組み合わせる幅広く保障します。



家族の幸せを災害から守る

火災共済/地震風水害共済/交通災害共済/生命共済/入院共済

契約引受団体：明治安田生命保険相互会社

みんなで暮らしをガード
交運共済
全国交通運輸業労働者共済生活協同組合



続いて、JR連合九州地協田頭事務局長、交運共済龍係長、九州退職者連絡会藤本会長が来賓として駆けつけ、激励と連帯の挨拶を頂きました。閉会の挨拶では、九州ロジ労組木村委員長より、ロジ会社の現状が述べられ、今年一年貨物連合九州一体となって頑張ろうと力強く述べられました。その後、場所を移動し懇親会を開催しました。

貨物連合関西旗開き

1月27日、広島市に於いて旗開きを開催しました。前段に例年通り共済の学習会を開催し、その後場所を移し旗開きの開催となりました。来賓として、西労組広島地方本部から宮川書記長、交運共済中国事業本部中村係長、そして、西労組広島地方本部副委員長であり、今春の統一地方選挙に東区から県議会委員に立候補する柿本忠則氏にも参加して頂き例年ない賑やかな旗開きとなりました。



この他、中ロジ労組から8名、鉄産労12名の参加がありました。旗開で挨拶にたった福本委員長は、「今年はある意味勝負の年である。すぐに春闘が始まり、春には統一地方選挙、夏には参議院選挙、このすべてに勝利し、その勢いで貨物連合関西の飛躍の年にしよう」と挨拶があり、懇親会に入りました。

東海地区本部旗開き

東海地区本部は、1月14日一宮市内において、ご来賓・組合員の皆さん総勢40名を超える出席で「2019年新春旗開き」を開催しました。旗開きは、奥田副委員長の司会で始まり、榎地区本部委員長より「2019年、私たちを取り巻く状況と取り組むべき課題」について平成最後の年頭の挨拶がありました。つづいて、ご来賓として尾内JR連合東海地協議長、石原交運共済東海事業本部推進係長、羽根東海労金一宮支店長、棚橋同営業担当、安藤退職者連絡会会長、辻村本部書記長が紹介され代表者からご挨拶を頂き、永井

地本執行委員の乾杯の音頭で懇親会に移りました。懇親会は、年末年始の楽しい報告や今年への意気込み・豊富など、様々な話題で盛り上がり楽しい交流ができました。また、青年部によるビンゴゲームが行われ、多くの皆さんが「福袋」をゲットしていました。今年の旗開きも皆さんの笑顔で、新しい年の出発ができたと共に、楽しいひと時を過ごせたとおもいます。時間も経過し、梅本地本執行委員の中締め挨拶で2019年旗開き懇親会は成功裏に終了しました。全組合員の総力で、2019年を実りある飛躍の年にしましょう。



東海地区本部榎委員長

交運共済2019年新春学習会

(東海地区本部)

2019年1月14日(月)一宮市内において、「交運共済2019年新春学習会」が開催され、約35名の組合員が参加しました。

学習会は、長尾地区本部共済担当の司会進行で進められ、交運共済東海事業本部を代表して、石原係長より交運共済の取り組みと課題について挨拶を頂くと共に、「学習会レジュメ」をもとに各種共済の具体的な説明や取扱い等について講義を頂きました。学習会に参加された皆さんからは、多くの質問が出され、有意義な学習会になりました。



交運共済石原係長

「お知らせ」

・全国代表者会議
(第32回中央委員会) 開催
2月8日(金) 13時30分
から、尾張一宮駅Iビル会議
室。

・JR連合第31回
中央委員会開催
2月5日(火) 13時から、
静岡市内。

隣家の火事が我が家に！ さて、保障はどうなる？

交運共済の火災共済なら、自家出火はもちろん
隣家の火災による被害も保障。
地震や台風などの自然災害保障も充実。



みんなで暮らしをガード
交運共済
全国交運共済労働者共済生活協同組合

大切な家が災害にあったら

火災共済/地震風水害共済